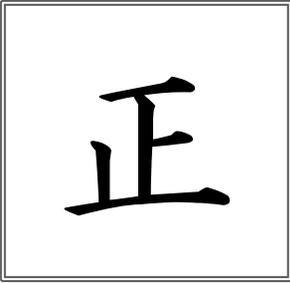




コロナ対応に関わるマスクの使用について

5月2日に新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの取扱いについて「マスクの着用を求めないことを基本とする」ことをお知らせしました。これからは行事や日常生活も徐々に以前の状態に戻ることと思います。5月初旬は校内でも試合会場でも、マスクを着用している方が8割程度に感じていましたが、今後は日々変化すると思います。そのなか、やはりマスクは着用したままの方もいると思います。これは、家庭に基礎疾患がある方や高齢者と同居していたり、妊婦や小さな赤ちゃんがいたり、やはり不安感が拭えなかったり、その理由は様々あると思います。マスクを付けるか付けないか、いずれの判断も気兼ねなく選べる学校であってほしいと強く願っています。

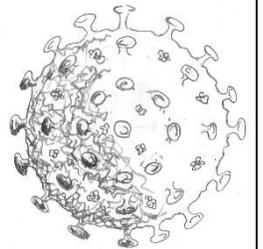
正論は複数あっていい



2020年9月コロナ感染症にどう向き合っていくか判断がとても難しかった頃でした。京都や奈良の複数の僧侶に心穏やかに「新たな日常」を生きるためのアドバイスを取材した雑誌がありました。そのなかで、奈良薬師寺の大谷徹さん(口頭では京都の僧侶と伝えていましたが、奈良の間違いでした)が、「正論という言葉がありますよね。一の字が5つで正の字ですから、答えは5つある。私はそれが正論だと受け止めています。」という言葉が紹介されていました。絶対の正解一つを求めても無理なことや自分とは異なる相手の考えも「正論」として受け止めなくてはならないことはあります。コロナの問題以外でも教訓にしたい言葉だと思います。

コロナ差別を助長しない報道としての対応

ニュースなどのテレビ報道で、コロナ感染症を報道するときには、必ずコロナウィルスの写真が画面に映されます。これは、コロナ感染症を恐れるために、コロナ患者、医療従事者、配送業者などの当事者や家族が差別の対象となってしまったことへの対応として「恐れ憎む相手は『ウィルス』であり人間ではない」ことをハッキリ伝えるための手立てだという話を聞いたことがあります。



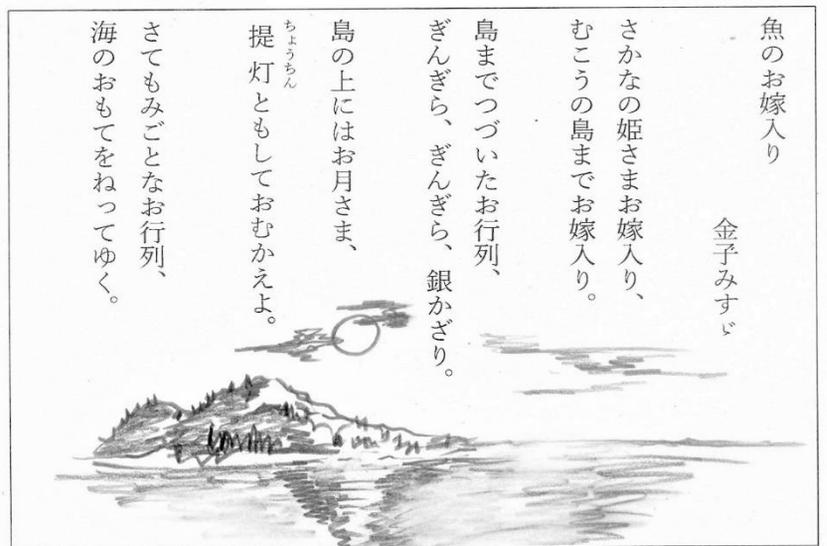
これまで、ハンセン病やエイズウィルスの患者や回復者(元は患者でも現在は完治している者)への差別は繰り返されてきました。これからも、私自身や私たちの周りで感染症にかかることはあると思います。そのとき、憎むべき相手は『病気』であることを心にとめておきたいと思います。

中間テスト

さて、5月15日が中間テストの発表です。22日と23日に行われるテスト範囲が発表されます。もともと授業で受けている学習内容から大きく変わることはないと思いますので、生徒の皆さんには予想できることですね。

自分が自由にできる時間をテストに向けてどれだけ活用できるか。これは、テストの点数のことだけでなく、社会に出て活躍する前に、自分で自分を鍛える経験の意味もあります。計画的に学習できる時間を管理する自分の能力を是非育ててください。

《ほっと、一息》



6月の主な行事

2日(金) 第1回英語検定

3日(土) 地区総合体育大会(野球)

県通信陸上高吾・香長大会

4日(日) 地区総合体育大会(野球)

県通信陸上高吾・香長大会

7日(水) 高松 SC 来校(PM)

9日(金) 高校説明会(PM)

10日(土) 地区総合体育大会(陸上・卓球)

12日(月) 心臓検診

16日(金) 生徒総会

19日(月) 3年第2回実力テスト

20日(火) PTA 朝の交通安全指導

22日(木) 参観日

24日(土) 全日本通信陸上

25日(日) 全日本通信陸上

28日(水) 期末テスト(社・数・保体)

29日(木) 期末テスト(理・英・技)技は3年のみ

30日(金) 期末テスト(国・音)